

会館だより

2012年 9月号 第279号



公益財団法人 日中友好会館

「会館だより」 9月号の内容

行事案内

《第22回中国文化之日》

- ・中国西南秘境の声
—プーアル少数民族歌舞公演と
プーアル印象展

《日中友好会館美術館》

- ・第23回日中友好自詠詩書交流展東京展
- ・法政大学書道會 55周年記念展覧会

《日中友好後楽会》

- ・9月談話会

活動記録

- ・7月談話会
- ・岸本奨学金授与式
- ・後楽寮寮生が防災訓練を体験
- ・長野県小諸市ホームステイ感想
- ・白馬ホームステイの感想
- ・平成24年度中国青年代表団第1陣が来日
391名が各分野で交流
- ・キズナ強化プロジェクト—
平成24年度中国社会科学院
青年研究者代表団第1陣が来日
- ・平成24年度中国青年メディア関係者
代表団第1陣
「キズナ強化プロジェクト」で来日

附録

- ・日中比較文化講座

会館行事と人の動き

表紙

『ワ族の髪振り舞』

(第22回中国文化之日
雲南省プーアル少数民族歌舞公演より)

催事の詳細は、本誌2ページの「行事案内」
をご覧ください。

行事案内

第22回中国文化之日

◆「中国西南秘境の声 —プーアル少数民族歌舞公演と プーアル印象展」

主催：公益財団法人日中友好会館
プーアル(普洱)市政府新聞弁公室
協力：上海東方青少年国際文化交流中心
後援：中華人民共和国駐日本国大使館、
(公社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、
(一財)日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、
(一財)日中経済協会、(社)日中協会、
日本華僑華人聯合總會、東京中国文化センター

●公演「中国西南秘境の声 —プーアル少数民族歌舞公演」



ラフ族のギターと歌

日時：10月19日(金) 19:00～
20日(土) 13:30～/18:30～
21日(日) 13:30～

全4公演
(30分前に開場、上演時間は1時間程度)
会場：日中友好会館地下1階大ホール
入場：前売り1,000円 全席指定
「e+イープラス」にて好評発売中
<http://eplus.jp> (PC/携帯共通)
ファミリーマートでもチケットを
購入できます。
(空席があれば当日券¥1,200円を販売)

●展覧会「プーアル印象展」

会期：2012年9月27日(木)～10月21日(日)
※初日は15時より
会場：日中友好会館美術館
休館日：水曜日 入場料：無料
時間：10時～17時
(公演期間は上演終了後まで開館)
イベント：開幕式 9月27日(木) 15時～



プーアル茶畑

当会館が毎年秋に行なっている、中国の文化や芸能を紹介する催事「中国文化之日」は、今年で22回目を迎えます。本年は「中国西南秘境の声」と題し、雲南省プーアル(普洱)地域少数民族の民族芸能公演と、文化を紹介する展覧会を開催します。

プーアルは、日本ではプーアル茶で有名ですが、実は少数民族が多く住む秘境です。プーアルの少数民族には、「口があれば歌える、足があれば踊れる」ということわざがあるほど、暮らしと歌舞が密接で、独特な生活風習、伝統、文化が反映されています。本公演では、ワ族・ラフ族・タイ族が来日し、多様な歌舞をお送りします。展覧会は「プーアル印象」と題し、各少数民族の衣装、楽器、生活用品などのほか、現地特有の物産(プーアル茶、コーヒー、石斛(せつこく))、芸術品(彫り進み木版画、黒古陶器、木細工等)も展示します。日本はもとより、中国国内でもなかなか見る事のできない秘境の多彩な文化をご堪能下さい。ご来場を心よりお待ちしております。

【お問合せ】(公財)日中友好会館 文化事業部
電話：03-3815-5085
e-mail: bunka@jcf.or.jp

日中友好会館美術館

◆第23回日中友好自詠詩書交流展東京展

会 期：2012年9月6日(木)～9月9日(日)
時 間：10時～17時
(初日は15時半から、最終日は15時まで)
会 場：
日中友好会館美術館、地下1階大ホール
入場料：無料

主 催：日中友好自詠詩書交流会
中国書法家協会、河南省書法家協会
後 援：中華人民共和国駐日本国大使館、
(公財)日中友好会館、(一財)日本中国文化交流協会

展示内容：
日中双方の代表作家による自詠詩書(漢詩・書道)作品を展示。日本側100点、中国側100点の計200点を展示予定。

【お問合せ】

日中友好自詠詩書交流会事務局
電 話：03-3837-4445

◆法政大学書道會 55周年記念展覧会

会 期：2012年9月14日(金)～9月17日(月)
時 間：10時～17時
(16日は15時まで、最終日は16時まで)
会 場：日中友好会館美術館
入場料：無料

主 催：法政大学書道會
展示内容：
大学生、卒業生の書道作品を中心に展示

【お問合せ】法政大学書道會

Eメール：hosei.ref@live.jp

日中友好後楽会

◆9月談話会

テーマ：「環境法と現代社会」
講 師：劉 明全 (後楽寮生)
日 時：9月13日(木) 午後5時より
会 場：本館地下1階大ホール
会 費：お一人1,500円 (非会員2,000円)

講師は、河南省出身で現在早稲田大学にて民法を研究されている劉明全さんです。劉さんは現寮生委員長でもあります。

新しい技術や商品が社会に利便性をもたらすと同時に、環境には様々な影響を及ぼしています。

法律はすでに発生した状況に合わせて制定することが多く、特に環境法は、現況に即した法律をすぐに制定することは難しいとされます。環境破壊が一旦起こると元通りに回復することはほぼ不可能であり、因果関係を証明することもできず、また長期における影響は不可避です。環境法を、環境破壊を未然に防ぐ重要な術のひとつであると考え、講座ではいくつかの事例を挙げながら、現代社会の環境法の問題点といかに対応していくべきなのかをお話ししていただきます。

【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林陽子
電話：03-3811-5305
FAX：03-3811-5263
メールアドレス：bunka@jcfc.or.jp

活動記録

◆7月談話会



講師の王小雄さん

7月11日、寮生の王小雄さんを講師に迎え、「中国唐代長安の仏像における装飾文様の研究—西安宝慶寺の石仏を中心として」をテーマに講義を行いました。王さんは、現在は早稲田大学にて美術史を研究されています。

講義では、西安の宝慶寺から出土し、現在日本を中心とした世界各地に収蔵されている仏像の写真をスライドで見ながら、天蓋、台座、手の形など細かな造作や装飾をひとつひとつ丁寧に説明していただき、一度に沢山の仏像を見てなんとも有り難い気持ちになりました。（後楽会事務局）

◆岸本奨学金授与式

7月31日、大ホールにおいて岸本奨学金授与式が行われました。これは社団法人岸本倶楽部が模範的な寮生に対して毎年奨学金を授与しており、今年で27回目となります。岸本倶楽部は日本の学生や海外からの留学生への修学助成等を行っている団体であり、初代会長は当会館の古井喜実初代会長です。後楽寮が建設された翌年の1966年から古井会長の発案により、一年も中断することなく、毎年行われています。

まず大ホールで出席者を紹介した後、岸本倶楽部の加藤昌夫専務理事の挨拶と当会館の武田理事長の挨拶があり、続いて寮生委員会の劉明全委員長から奨学金受給者を

代表して感謝の挨拶がありました。その後、一人一人が日本語や英語でお礼と自己紹介をしました。



お礼と自己紹介をする寮生

次に会場を「楓林」に移し、懇親会を行いました。懇親会は終始和やかな雰囲気で行われ、寮生達は岸本倶楽部の方々や会館役員と交流をしていました。

（留学生事業部）

◆後楽寮寮生が防災訓練を体験

7月14日、文京区役所危機管理室防災課のご協力により、寮生委員会主催の防災訓練を行いました。まず、起震車を使って実際の地震動に近い揺れである震度2~7を全員に体験してもらいました。中には上手く机の下に入れない寮生もいて、見学をしている寮生がアドバイスをしたり、実のある体験となりました。次に煙ハウスで火災による煙を疑似体験しました。それほど広くないテントでしたが、実際に煙があると視界が無くなる事、体をかがめると避難しやすいことを学習できました。

続いて消火器の使い方を寮生委員自らが説明し、最後に地震が来たことを想定し、全館放送で寮生に促し、実際に避難経路を使い各居室から非常階段を使って寮外へ避難し、その後寮内の防火扉についての説明を留学生事業部職員が行いました。

後楽寮2階の各居室には避難ロープ、3階の各居室には避難梯子があるので、説明

書や使い方を一度確認するよう伝えただけ、先日実施された耐震検査の結果、震度7までは倒壊がない事を説明すると、寮生達は少し安心した様子でした。



起震車を体験

毎年秋には寮生委員会主催で池袋防災館を見学しています。寮生の防災への関心はますます高まっているようです。

(留学生事業部)

◆長野県小諸市ホームステイ感想

2012年7月25日から27日まで、私は李燕喜さんと一緒に、長野県小諸市で山浦先生のお宅へ、二泊三日のホームステイに招待いただきました。三日間は非常に短かったですが、私の心に一生忘れられない思い出になりました。

25日午後2時ごろ佐久平駅に到着したら、小諸市日中友好協会会長の佐々木治夫先生をはじめ、同市日中友協の先生達が、早くも迎えに来ていました。挨拶の後、山浦先生のお宅で荷物を置いた後、同協会の先生達と一緒に、近くにある喫茶店で談話会が行なわれました。そこでは先生達に熱心に小諸市の地域状況、歴史、風景、名産等を詳しく紹介していただいたので、翌日からの観光が楽しみになりました。ここで特筆すべきことは、夜、山浦先生のお宅で日中文化交流の一部として、同行した李さんが

プロの調理師として、有名な中国料理・酢豚(糖醋排骨)を料理して、日本の皆さんにごちそうしたことです。

26日は朝9時から、同協会の先生達と一緒に小諸市の有名な観光地・懐古園を見学しました。同園の歴史は、平安時代まで遡ります。主に小諸城の三の門から本丸にいたる城の中核部分が公園として整備され、苔むした石垣、古木、切り立った崖、千曲川の流れ、その中で毎年再生する草花など、心が洗われるふしぎな空間です。これだけではなく、同園を中心として、小諸義塾記念館、小諸観光交流館、小諸寅さん会館、小山敬三美術館、水明楼など、多くの文化の雰囲気があふれる場所がいっぱいあります。懐古園は、遺跡として、本物の建物が存在していないので、小諸市の長い歴史を想像するとすれば、桑屋(旧脇本陣・江戸後期)をはじめ、今までも存在してきた本物の建物が小諸市の長い歴史に触れられると言えるでしょう。与良家(江戸初期)、中吉(江戸末期)、小山庄(江戸初期)、山崎長兵衛商店(明治後期)、嶋田屋(1852年)、酢久商店(江戸後期)、柳茂商店(明治20年)など、有名な古い建物は現在まで保存されてきました。最後に、白鳥映雪美術館を観光すると同時に、美しい浅間山を眺望しました。



浅間山をバックに



後列：(左から)塩川秀忠社長、桜井隆之理事長、
柳田剛彦市長、筆者、別府福雄議長、佐々木治夫会長、
前列：(右から2人目)山浦米子理事

午後は短い休憩の後、市役所で市長と議長にお会いしました。市長と議長は忙しいところ、わざわざ私達にあう時間をとっていただき、同市の名産物までくださり、市役所を案内していただいたりしました。これだけではなく、晩ご飯のときに、同協会が準備した歓迎会にも市長と議長は出席してくださいました。こんなに歓迎されるなんて、本当に恐縮でした。

27日朝9時、山浦先生と一緒に、当地の有名な会社である大栄製作所に集合しました。午前中、塩川社長は先ず、大栄製作所の歴史、業務内容などを紹介してくれました。そして同社の製品の一種をプレゼントとしていただきました。その後、社長自ら同社の工場を案内し、私達と協会の一行に詳しく説明してくれました。工場見学の後、昼ごはんは当地のある有名な寿司店に招待していただきました。三日間は、本当にあっという間に終わりました。ついに別れる時間になりました。別れる時、山浦先生をはじめ、当地の名産物などいろいろなプレゼントをいただきました。

今回のホームステイに参加する前に、他人の家に泊まることは、厳しい人がいるかもと言われました。ちょっと心配していましたが、三日間のホームステイを体験した結果、ぜんぜん余計な心配でした。私達を

招待した小諸市日中友好協会の会員の皆さんは、主に中国と深い絆をもっている方です。三日間は毎日超暑かったのに、先生達は皆高齢ですが、暑さに耐えて、朝九時から夜九時まで一日中一緒にいていただいたことに、感謝する気持ちでいっぱいです。日中関係は時々緊張しますが、今まで平和・友好関係を保ってきた原因は、たぶん先生たちのような日中友好人士の代々の努力の結果でしょう。最後に、先生達がいつまでも健康でありますように祈っています。自分自身も今後の人生で日中の友好に貢献できるように頑張ります。



塩川秀雄社長を囲んで

(後楽寮寮生 牟倫海)

◆ 白馬ホームステイの感想

2012年7月25日から27日にかけて、私たち六人は幸運なことに第22回長野県ホームステイに参加でき、白馬村の大塚善弘氏に受け入れてもらった。この短い三日間は私たちには人生の宝物のようにこころに残っている。

25日のあずさ号に乗り、目的地の松本駅に着いたら、ホストファミリーの大塚さんが駅まで迎えに来てくれた。車の中で、大塚さんが白馬について紹介した。白馬は1998年長野冬季オリンピック大会のメイン会場の一つで、冬はスキー、夏は登山、自然の豊かさで知られている。涼しい風が

車窓から吹き込み、新鮮な草刈の匂いが空気の中を漂っている。見渡す限り夏の緑一色で、遠景には緑の山々と雄大な雪山が何重にも連なり、その上には青い空が広がっていく。

気がついたら、車は一軒の三階立ての建物の前に止まった。道しるべのプレートに「プチホテル ぴー坊」と書いてある。大塚さんは民宿ホテルを経営しているからこそ、はじめて私たち六人の大勢を受け入れることができた。その晩、洋風なレストランで皆食事をしながら、大塚さんと楽しく話し合った。大塚さんのお父さんは中日国交復興以来、初めて中国のスキー選手を招待した方で、大塚さん自身も日中友好協会長野県支部の理事を務め、毎年数多くの中国人選手を受け入れているそうで、親子二代は中日友好のため、大活躍し、大いに貢献してきた。



太田紘熙村長（左4）、大塚善弘さん（右）を囲んで

翌日の朝一番、白馬村の太田紘熙村長を表敬訪問した。「美しく豊かな自然との共存」という1998年のオリンピック大会の理念に従い、白馬の自然環境の保全への様々な配慮と措置を紹介し、全員でオリンピック大会の旗の前で、記念写真を撮影した。その後、大塚さんのご案内で白馬の豊かな自然を体験した。八方駅からリフトを三回乗り換え、標高2000メートルの山の上までのぼった。白馬岳は近くに見え、前日の遠望とは違い、たいへん迫力があつた。今ま

で図鑑でしか見られなかった珍しい高山植物は身の周りに満ち溢れ、まるで夢のガーデンに身を置いているようだった。同じ白馬中日友好協会の方で、元スキー選手、スキー監督の丸山庄司氏のご招待で、お昼は地元の有名なそばをご馳走になり、丸山さんの経営している温泉旅館で温泉にも入った。そして、地元の資料館とジャンプ台も見学した。夜、大塚さんのお宅で白馬日中友好協会が私たちのために、バーベキュー歓迎パーティを開催してくれた。中日友好交流の歴史から中国経済の現状、地元の観光事業の青写真まで幅広く楽しく交流ができ、終わりに全員で中国語で「幸せなら手を叩こう」を熱唱した。

27日最後の日には、いつもおいしいご飯を作ってくださったお婆ちゃん、娘さんの裕華ちゃん（国学院大学四年生）たちと別れの挨拶をし、別れに臨んで名残惜しさに堪えなかった。大塚さんのお宅をあとにし、白馬日中友好協会の福島会長と大塚さんのご案内で、大町市牛越徹市長と松川村平林明人村長を別々表敬訪問した。3.11大震災と放射能汚染から影響され、地元の観光事業と輸出が大きな打撃を被ったそうだ。そして、地域の豊かな大自然のことを世界に発信し、世界各国の人々を歓迎するという熱意が伝わってきた。中日友好の架け橋になり、もっと中国へ日本のよさと安全さを伝えたいと私たちも自分の思いを述べた。残りわずかの時間だが、安曇野ちひろ美術館も案内してくれた。

ホームステイの三日間はあっという間に過ぎたが、大塚さんご一家の手厚いおもてなしと、白馬日中友好協会の皆さんのお蔭様で、私たちは大変有意義な体験をすることができた。今回のホームステイをきっかけに、中日間の更なる深い交流のために、ささやかながら、力を注いでいきたいと思う。
（後楽寮寮生 王蕾）

◆平成24年度中国青年代表团第1陣が来日 391名が各分野で交流



仙台空港の復興の道のりを視察

「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流（キズナ強化プロジェクト）」の一環として、7月25日から8月1日まで平成24年度中国青年代表团第1陣（総団長＝万学軍・中華全国青年連合会主席助理）が来日した。一行は青年指導者・公務員35名、若手実業家33名、教育・観光29名、大学生294名で構成された計391名。同団の派遣は中華全国青年連合会、当財団が全体管理と若手実業家分団を担当し、それ以外の各分団はそれぞれ（特非）国際交流サービスセンター、（特非）日中新世紀協会、（株）大富に実施を委託した。

東京滞在中の7月26日夕方には、代表団の歓迎会を開催。中野譲・外務大臣政務官、湯本淵・中華人民共和国駐日本国大使館公使参事官をはじめ、国会議員など多くの来賓、受入団体関係者が出席し、賑やかに行われた。また、学習院大学三曲研究部絲竹会が、三曲の演奏を披露。雅やかな演奏に一同は魅了された。代表団からは、歌や踊りなど3演目が披露され、会場を大いに盛り上げた。

その後、各分団は東京及び青森、岩手、秋田、宮城、神奈川、山梨、静岡で視察・交流に参加。それぞれ分団のテーマに沿ったセミナーや日本青年との交流会等を通し、日本理解を深めた。

東日本大震災被災地～

宮城県仙台市・名取市・松島町を訪問

若手実業家分団は青年指導者・公務員分団、教育・観光分団とともに、キズナ強化プロジェクトに基づき、東日本大震災被災地である宮城県を訪問した。仙台市では、魯迅の碑を訪れて宮城県日中友好協会の副会長より碑の来歴を聞き、団員を代表して万学軍総団長が献花した。また、名取市の仙台空港と麒麟ビール仙台工場を訪問し、それぞれ被災状況と復興への取り組みについてお話を伺った。麒麟ビールでは生産ラインも見学し、津波で泥だらけになった状態から食品工場として安全な製品を生産できるまで再生したことに団員は関心を示していた。日本三景の一つである松島では遊覧船に乗り、海から松島の被災状況と観光地として活気を取り戻した町の様子を見学した。一同は、短期間で目の覚ましい復興ぶりに驚くとともに、被災地の方々の努力に感心した様子だった。

若手実業家分団は 経産省、神奈川県庁を訪問



経済産業省訪問

若手実業家分団一行は、被災地訪問のほか、経済産業省では「日本の流通政策」、神奈川県庁では「神奈川県の中小企業制度融資」、「中小企業の経営革新支援について」などのブリーフを受けた。行政による手厚く細やかな支援制度に興味を示していた。また、懇談会で日本の青年企業家との交流

を図り、日本の起業環境や社会保障、中国への企業進出等について話し合った。その他にも東レ株式会社や日産自動車株式会社追浜工場を訪問するなどして、日本の経済・企業への理解を深めた。

7月31日に東京で開催された全分団合同の歓送報告会には、周海成・中華人民共和国駐日本国大使館参事官らが出席。各分団から集められた日本滞在中の交流写真を纏めたスライドショーを上映し、また団員の代表が活動の成果を報告、パフォーマンスも披露し、盛会のうちに訪日を締めくくった。

大きな病気や怪我をする団員もなく、代表団一行は8日間の日程を終え、8月1日全員無事に帰国した。本事業の実施にご協力いただいた外務省、中国大使館、受入関係機関等の皆様に厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

◆キズナ強化プロジェクトー
平成24年度中国社会科学院
青年研究者代表団第1陣が来日
「社会制度設計」をテーマに
東京・福島・宮城・大阪・京都で活動



山口信也喜多方市長(右)より黄曉勇団長へ
起き上がり小法師が贈られる

7月22日から7月29日までの日程で、平成24年度中国社会科学院青年研究者代表団第1陣(団長＝黄曉勇・中国社会科学院研究生院院長)計50名が来日した。中国社

会科学院は、中国の哲学・社会科学の最高研究機関で、本団は有望な若手研究者で構成される。本招聘事業は平成22年度に始まり、これまでに6回、計約300名が訪日しており、今年は外務省が実施する「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流(キズナ強化プロジェクト)」の一環として招聘した。

代表団は「社会制度設計」をテーマに活動し、2分団に分かれて、それぞれの専門テーマ「中央と地方」「社会と法」に関するブリーフや交流などに参加した。

福島県喜多方市・宮城県仙台市、松島町、
東松島市、名取市を訪問

一行は、キズナ強化プロジェクトに基づき、東日本大震災被災地を訪問した。「中央と地方」分団は福島県喜多方市を訪れ、山口信也市長表敬のほか、福島第一原子力発電所の事故の風評被害による観光や農業への影響と復興への取り組みについてブリーフを受け、職員と意見交換を行った。その後、アスパラガスの選果場、自家用野菜の放射線量検査場、アスパラガス農家訪問等農業関係の現場を視察し、更に、大熊町からの避難住民の被災体験を聞くとともに、交流夕食会に参加した。団員数名が被災地を訪問しての感想を述べ、被災地に対し力強い励ましを送った。

「社会と法」分団は東北大学にて研究者や大学院生と交流したほか、東松島市の法テラス東松島を訪問し、法テラスの被災者支援について説明を受けた後、相談室などの設備や、法テラス号(相談車)を参観した。名取市では、津波の被害が大きかった閑上地区を視察したほか、仮設店舗の閑上さいかい市場では、復興へ向けて力強く歩み始めた様子をうかがうことができた。

さまざまな角度から対日理解を深める

被災地訪問のほか、東京・大阪・京都では、テーマに関する交流や参観など、多彩な活動を行い、包括的な対日理解を深めた。



都庁内の東京都防災センターにて
震災対応・復興支援のブリーフを受ける

総務省、政策研究大学院大学、大阪大学大学院、株式会社大阪工作所では「中央と地方」に基づくプログラムを実施し、さまざまな角度から日本社会への考察を行った。法務省、日本弁護士連合会、京都地方裁判所、同志社大学では「社会と法」という視点から、専門家や研究者との交流や、ブリーフ・参観などを行い、日本の法曹領域について、具体的に見聞きすることができた。

また、東京都庁にて震災対応や復興支援のブリーフを受けたほか、国会議事堂、パナソニックセンター大阪、京都市内を参観した。これらの活動は、今後の研究や生活において、日本に関心を向けるきっかけとなったようだった。

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。(総合交流部)

◆平成24年度中国青年メディア関係者 代表团第1陣

「キズナ強化プロジェクト」で来日

7月1日から7月8日までの日程で、平成24年度中国青年メディア関係者代表团第1陣(団長=胡衛平・中国国务院新聞弁公室幹部研修センター主任)が来日した。

中国青年メディア関係者代表团は、中国国务院新聞弁公室が派遣する、中央・地方の若手メディア関係者、メディア行政関係者の招聘事業で、2010年に始まった。3年

目を迎えた今年も、外務省が実施する「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流(キズナ強化プロジェクト)」の一環として実施。第1陣として98名が来日し、東日本大震災の被災地への訪問とともに「メディア交流、観光」をテーマに活動した。



加藤敏幸外務大臣政務官(右)を
表敬訪問する胡衛平団長(左)

東日本大震災被災地～宮城県仙台市、 松島町、名取市、岩手県宮古市を訪問

代表团一行は、キズナ強化プロジェクトに基づき、第1分団と第2分団は宮城県仙台市、松島町、名取市を訪問、第3分団は岩手県宮古市を訪問した。

被災地では、宮城県庁や松島観光協会、宮古市観光協会から震災復興や観光に関するブリーフを受けた。被災状況と震災から学んだ教訓、反省、また今後の課題などを知る一方、団員からは復興も兼ねた観光PRのアイデアや方向性の提言がなされ、有意義な意見交換を図ることができた。

また甚大な津波被害をうけた名取市閑上地区や宮古市田老地区の視察の他、岩手県では宮古市の仮設住宅や仮設商店地区も視察し、地元の方と笑顔で交流することができた。

地元メディア関係者との交流では、仙台市では河北新報社、宮古市では岩手日報社、朝日新聞社の記者と懇談。地元記者からは被災地報道に携わる者としての葛藤や苦悩についても語られ、日中という国の違いを

超えて、メディア関係者同士、率直な意見交換を行った。



宮城県松島町の被災状況について説明を受ける

「メディア交流、観光」を訪日テーマに

今回の訪日テーマ「メディア交流、観光」に基づく活動のうち、メディア交流としては、全員共通で第8回東京－北京フォーラムに参加した他、グループに分かれて共同通信社、朝日新聞社、テレビ東京、毎日放送、神戸新聞社、京都新聞社を訪問し、それぞれの日本メディアの特色を理解するとともに、関係者との交流を図った。

また、観光庁によるブリーフでは、観光を通して国際的な民間交流の活発化を促進する日本のビジョンが語られた。関西では分団毎に大阪府庁、兵庫県庁、京都府庁で、各府県の観光戦略についてブリーフを受けるとともに、大阪府では大阪城、兵庫県では舞子公園と孫文記念館、京都府では金閣寺、龍安寺など、各都市の特長的な観光地を参観するなど、さまざまなプログラムを実施し、包括的な対日理解を深めた。

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。(総合交流部)

附 録

◆日中比較文化講座

日中友好会館 顧問 村上立躬

1993年、(財)かながわ学術研究交流財団(理事長 長州一二、現かながわ国際交流財団 理事長 福原義春)から神奈川県の日中友好会館の協力を得て、年1回共催したいとの提案があったので、日中相互理解増進に資すると考え、具体化に向けて作業を開始しました。

この研究財団は神奈川県葉山町の東端に建設される「湘南国際村」に本拠を置くこととしていたが、同村の開村が1994年5月となるので第1回(1994年2月26日)だけ日中友好会館大ホール、第2回以降は湘南国際村内のホールを使用し、各回100名前後の日中友好県民が参加しました。講座のテーマは両者で協議して決め、講師は会館が交渉に当たり、広報・会場の設営はかながわ研究財団が担当しました。

1994年から2009年迄に17回(他に番外1回)開催しましたが各回のテーマと講師は別表の通りです。

東京から国際村の会場までは2時間余りかかることもあり、参加者はほとんど県内最寄の方々に止まったのは内容が充実していただけに残念に思いました。

この事業は2007年4月に(財)かながわ学術研究交流財団が(財)神奈川国際交流協会と統合し、(財)かながわ国際交流財団に改組され本部を横浜市神奈川区内に移転したこともあり、2009年11月の第17回を以って終了しました。

1	1994 2.6	企業の国際化と中国人雇用について 講師:中国アジア太平洋経済研究所 馬成三副所長
2	1995 3.4	日中法体系の違い—法意識と契約意識 講師:高知地検次席検事 太田茂氏、大阪市立大学法学部 王晨助教授
3	1996 3.16	中国における日本語教育の現状と課題 講師:北京外国語大学 嚴安生教授、神田外国語大学大学院 奥津敬一郎教授、 北京大学東語系 徐昌華教授
4	1997 3.1	日中関係の現状と将来—中国人の視点 パネリスト: 中国国際放送局 夏文達東京支局長、中国日本友好協会 呉瑞鈞秘書長、 「人民中国」雑誌社 于明新東京支局長、日中友好会館 殷蓮玉経済交流部長
5	1998 3.7	文化面から見た日中関係の在り方 (周季華) 日中文化交流と食文化 (賈恵萱) 講師:京都大学法学部 周季華教授、北京大学 賈恵萱教授
6	1999 3.13	唐代古典音楽と雅楽 (孟仲芳) 日中雅楽考 (岩波滋) 講師:天津音楽大学 孟仲芳助教授、宮内庁楽部 岩波滋楽長補
7	2000 3.11	敦煌莫高窟伝統芸術の美と神秘を探る 講師:東京芸術大学 福井爽人教授、敦煌研究院 趙俊榮助理研究員
8	2001 3.10	東アジアにおける歴史教育に関する対話 講師:東京大学 西川正雄名誉教授
9	2002 3.21	漢方医学と生活習慣病 講師: 中国同済大学中西医総合研究所 汪先恩副教授、順天堂大学 荻原達雄助教授
10	2003 2.8	雲南料理の魅力と医食同源 講師:中国雲南料理「御膳房」徐耀華社長、聖徳大学 木村春子講師
11	2004 2.7	中国茶の多様な世界 講師:横浜華僑総会 曾徳深会長、中国茶コーディネーター 佐野由美子女史
12	2005 2.5	中国酒の楽しみと効能 講師:中医薬膳アドバイザー 稲田恵子氏
13	2006 3.4	遣唐使 井真成の実像 講師:国学院大学 鈴木靖民教授
14	2007 2.17	徐福伝説をめぐる日中の動向 講師:徐福研究者 達志保女史
15	2008 3.2	世界が認めた中国シネマ 講師:中央大学文学部 飯塚容教授、(株)オフィス北野 市山尚三プロデューサー
16	2009 3.22	文化の万華鏡 (中国若者のファッション意識とライフスタイル) 講師:(株)東レ経営研究所 浜口昌幸客員研究員、明治大学経済学部 宋立水教授
17	2009 11.28	中国、変わる食文化 講師:横浜華僑総会 曾徳深名誉会長
番外	2008 12.13	見て、聞いて、食べて感じる中国 講師:横浜華僑総会 曾徳深名誉会長

会館行事と人の動き 7/1～31

● 会館行事

- 7/ 1～7/ 8 ▶ 中国青年メディア関係者代表団第1陣来日 (7/2同団歓迎会、7/7歓送報告会)
- 7/ 5～7/13 ▶ 「美しい中国 美しい日本」写真展(協力展)
- 7/11 ▶ 後楽会談話会「中国唐代長安の仏像における装飾文様の研究」講師:王小雄
- 7/14 ▶ 後楽寮生防災訓練
- 7/19 ▶ 後楽会中国旅行写真交換会、気功・中国画教室
- 7/22～7/29 ▶ 中国社会科学院青年研究者代表団第1陣 来日 (7/23同団歓迎会、7/28歓送報告会)
- 7/25～7/27 ▶ 後楽寮生長野県下ホームステイ
- 7/25～8/ 1 ▶ 中国青年代表団第1陣 来日 (7/26同団歓迎会、7/31歓送報告会)
- 7/31 ▶ 岸本奨学金授与式

● 来館・訪問・面会

- 7/ 4 ▶ 三井不動産 北原義一常務取締役来館(武田理事長)
- 7/ 9 ▶ 外務省遠山茂地域調整官らとの懇親会 (王理事)
- 7/13 ▶ 元中国大使館参事官 彭家声夫妻面会 (王理事)
- 7/18 ▶ 大使館in Nikko 2012実行委員会 福田大介氏来館(留学生事業部)
- 7/21 ▶ 中国外交部との会食(武田理事長、王理事)
- 7/26 ▶ 岸本クラブ往訪 (武田理事長)
- 7/29 ▶ 中華全国青年連合会との会食(宮本副会長、武田理事長、王理事、小島事務局長)
- 7/30 ▶ 日中友好協会 村岡久平理事長との夕食会 (王理事)

● 行事参加、その他の活動

- 7/ 2 ▶ 第8回東京-北京フォーラム (武田理事長)
- 7/ 3 ▶ 中国当代国画展 (武田理事長、於:東京中国文化センター)
- 7/ 5 ▶ 留団協定例会(留学生事業部、於:横浜市国際学生会館)
- 7/ 9 ▶ 日中企業家高峰フォーラム (武田理事長)
- 7/17 ▶ 日中国交正常化40周年の記念公演「多彩なる貴州の風」 (王理事)
日中友好加須市民会議ボランティア(後楽寮生)
- 7/20 ▶ 「心連心 中国高校生長期招へい事業」第6期生帰国前報告会(武田理事長)
- 7/23 ▶ 「遣唐使慈覚大師円仁展—中日国交正常化40周年記念—」開幕式 (武田理事長)